

五穀豊穡と無病息災を祈願して

徳山神楽



1_ 恵比須大黒の舞ではお菓子が投げられ、子どもたちは持参した袋にこぞって詰め込んでいた。2_ 笛奏者の皆さん。3_ 成人伝承者によって神送りの歌が歌われ、しめ縄が切られ芸能が終了した。

芸能は、女子児童・生徒による「四座の舞」「天王の舞」「五輪龍の舞」「八王子の舞」のほか、成人男性が燃える松明を両手に持って勇壮に舞う「火の舞」など15の演目が披露され、多くの見物客が優雅な舞に魅了されました。

神社に到着後、神事の中で奉納された「神前の舞（全ての神楽の基本となる舞で、御幣と鈴を持ち、東西南北と中央の五方を浄める）」を皮切りに芸能が始まりました。

この日、13時30分から「徳山コミュニティ防災センター」で出立式を執り行い、徳山神社までの道行を行いました。道行では、各交差点で天狗が吼え、巫女姿の女子児童・生徒たちが沿道の見物客に御幣やお菓子などを配り歩きました。

舞を披露したのは、三ツ星学園の女子児童・生徒16名と成人伝承者12名で、9月上旬からの約一ヶ月間、計10回にわたり練習が行われてきました。

県指定無形民俗文化財「徳山神楽」が、10月13日（日）、徳山神社で奉納されました。江戸時代から代々氏子によって伝えられてきた徳山神楽は、五穀豊穡と無病息災を祈願して奉納されています。